

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年6月22日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子		
検証テーマ： オープニング、香港デモ、米中貿易摩擦、菅官房長官が大阪視察 【特集】 200万人デモと香港の怒り		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川県逃走犯事件 ・ オープニング ・ 新潟山形地震から初の週末 ・ 静岡県島田市の踏切で事故 ・ 香港デモ ・ 米中貿易摩擦 ・ 菅官房長官が大阪視察 ・ 日本航空のパイロットからアルコール検出 ・ ソウルで 5G 活用した自動運転実験 ・ ゲリラ豪雨で 4000 人に避難勧告 ・ 起訴勾留中の男が警察署内で死亡 ・ 【特集】 200 万人デモと香港の怒り ・ 【特集】 蚊やハエの感染症対策～最前線では～ ・ スポーツ報道 		
放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング：結論→特に問題なし 番組の冒頭、スタジオで金平キャスターが「麻生太郎氏が大臣を務める財務省が森友学園の公文書改竄や前事務次官のセクハラなど不祥事再発防止に向け有識者会議を設置することを決めました、けれども最大の問題は麻生大臣が有識者会議の報告書を受け取るかどうかだと思いますが、いかがでしょうか。」とコメントしていた。このコメントに当てられた時間は 20 秒だった、なお、番組の中で財務省の有識者会議については取り上げられていなかった。 ・ 香港デモ：結論→特に問題なし 香港のデモについて以下に朱記したように VTR と中継で伝えられた。 "林鄭月娥（香港行政長官）「私個人として市民の皆さんに心から謝罪申し上げます。」 ナレ「香港で香港政府トップは大規模デモのきっかけとなった逃亡犯条例の改正案審議を事実上棚上げするとし、市民に謝罪をしましたが抗議デモは収まりませんでした、16日には200万人が反対の声を上げました。実に市民の4人に1人が参加した計算で、中国への香港返還以降、最大の抗議活動となりました。10代20代の若者が香港の将来を悲観しているのが今回の特徴です。」 デモ参加者（16）「私達が参加しているのは次の世代のため、これが香港の未来だから。」" 		

"ナレ「混乱は長引き、デモ隊は中央（中国）寄りの林鄭月娥行政長官の辞任を求めています。」

デモ参加者「香港政府は中央の指示通り動くからどうしようもない。」

デモ参加者「言論の自由や個人の安全はだんだん制限されている（今の政治は）怖い。」

ナレ「香港では中国による締め付けが厳しくなる中、今回の改正案は一国二制度で認められた高度な自治を奪うものだ、と市民が不満を一気に爆発させたのです。」

森岡紀人（報告）「返還から 22 年を迎える来月 1 日にも大規模なデモが計画されています。デモは今や香港の行政府全体への抗議活動になりつつあります、混乱が収束するかどうかは不透明です。」

このトピックについて当てられた時間は 126 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・米中貿易摩擦：結論→特に問題なし

米中貿易摩擦が世界経済への懸念となる中で中国向けの大豆輸出などでアメリカと競う南米ブラジルがその輸出量を急拡大させているとことが以下に朱記した VTR で伝えられた。

ナレ「首都、ブラジリアにある中国大使館、ここである極秘の会議が開かれようとしていました。やってきたのは中国の政府幹部などの使節団、ブラジルの農業団体の幹部も大使館に入りました。」

"ナレ「特別に入手した会議の写真です。」

ファブリシオ・ホーザ（会議に出席した農業団体代表）「中国はブラジルと正式な契約を結び、大豆や肉製品といった食料品の安定供給をはかろうとしていました。」

ナレ「貿易摩擦の影響でブラジルはアメリカに変わり中国市場への農作物の輸出を拡大させていて、特に大豆は前年比 20%以上増えています。ブラジルの複数の農業団体も 5 月に農業相とともに中国を訪問し、農作物の売り込みを行っています。」

"山口貴史（報告）「乾燥地帯に広がるブラジルの大農場は米中貿易摩擦によって今、チャンスを迎えています。」

ナレ「ブラジリア近郊の 3000 ヘクタールもの広大な農地で大豆やトウモロコシを生産するファビオさん、技術進歩により収穫量の年々増加する中米中の貿易摩擦はまさに渡りに船だと話します。」

ファビオ・ザンチェッキさん「今の貿易摩擦の状況は私達生産者にとって黄金時代と呼べるのではないでしょうか。これほどまでに長い間好調が続いたという記憶はありません。」

ナレ「ファビオさんは年間 6000 トンの大豆を生産していて、その半分を中国などの海外に輸出、今後は中国での需要が高まることを期待し国内向けの出荷を輸出に切り替えたいとしています、また農業団体の代表は今後、中国との関係を一層強めていくと話しています。」

"ファブリシオさん「蛇口をいつも明け締めするアメリカとは中国は取引はしない。だからこそ、この貿易摩擦はブラジルに十分な恩恵がある。」

ナレ「米中の貿易摩擦の終りが見えない中、アメリカの裏庭と呼ばれる南米と中国が結び付きを強めています。」

このトピックについて当てられた時間は 168 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・菅官房長官が大坂視察：結論→特に問題なし

菅官房長官が来週 28 日から行われる G20 大阪サミットの会場を視察し、テロへの警戒など万全の体制で警備に当たるよう「我が国が主催するサミットとしては史上最大規模のものであります。安全確保のために陸と海の両面の警戒を徹底をしていただきたいと思います。」と指示したこと、日本初開催となる G20 大阪サミットには 37 の国と機関、首脳が参加する予定で菅氏は世界の課題解決に向けリーダーシップを発揮していきたいと意欲を語ったとことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 48 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】 200 万人デモと香港の怒り

香港のデモについて特集では以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

ナレ「今週、日曜再び香港島の中心部に、逃亡犯条例の改正に反対する市民が、集結した。」

日下部「このバスもデモに参加する若い人たちを乗せてきたんだね。たぶんこのバスをチャーターしたんだけど、」

ナレ「デモ開始は、午後 3 時。気温は 30 度を超えていた。」

日下部「自前でこうやって、えー参加者のためにですね、タオルを買って、こうやってみんなに配ってるんです。」

ナレ「抗議の前日、香港の林鄭月娥行政長官は、逃亡犯条例改正の延期を発表。しかし完全な撤回は無いと強調した。」

ナレ「これに反発した学生らは、完全撤回、さらに、長官の辞任などを求め、16 日、デモを実施した。」

日下部「黒い T シャツを着たほんとに多くの市民がここに集まってきています。改正案がですね、審議が延期されたということで、私も少しかう、参加者、減るんじゃないかと思ってたんですけども、そういったですね、予測を覆す、本当に多くですね、市民、特に若い人の姿が目立ちます。」

ナレ「デモの参加者の半分が、若者たちだ。」

日下部「お父さんや、お母さんは心配していませんか？」

中学 3 年生（吹替）「はい、心配しています。」

日下部「お父さんお母さんは行っちゃダメだって言いませんでしたか？」

中学 3 年生（吹替）「反対されたけど、何度もお願いしたら、許してくれました。」

ナレ「5 年前、民主的な選挙を求めて、学生らが起こした雨傘運動をはるかに超える規模となった。」

日下部「本当にですね、あの、雨傘運動以降、こういった活動から遠ざかっていた若者たちの姿が、非常に目立ちます。今回の条例に対するですね、えー将来に対する不安。そして何よりですね、行政長官が、若い人たちの行動をですね、暴動と決めつけたこと、これに対する反感が強いんだと思います。」

デモ隊「不是暴動（暴動ではない）」

デモ隊（字幕）「林鄭辞めろ」

日下部「デモ行進の先頭に立ってるのは、本当に中学生くらいの若者ですね。えー本当にこう、そのまわり市民がこうやって、デモ行進が来るとですね、周りから歓声が起きると、言った状況ですね。」

"日下部「Your baby?」

男性「ナッ（頷く）、子どもの将来のためにこの条例に反対します。」"

日下部「すごいなときどきこう、なんか、どよめきのようにですね、市民の声がこちらに聞こえてきます。今、撤回、撤回、撤回っていつてますね。」

日下部「えーあちらが香港政府の建物で、4 日前にはこの辺り、催涙弾とかですね、ゴム弾が、飛び交っていて、学生たち、若者たちも、多くの負傷者が出たわけなんですけれども、今日はこうやって、整然とデモが行なわれています。警察官もですね 1、まあ遠巻きにこのデモを、見守ると、まあデモには、ノータッチという感じさえます。」

ナレ「デモ行進のルートの中でも、特に人目を惹く一角があった。」

日下部「えーこのこの道沿いにはこう、ずっと、こう花束が置かれています。実は逃亡犯条例に反対する若者が、このビルから転落して、死亡しました。自殺とも言われています。今日のこのデモに参加している人の多くがこう、彼に対する追悼の意味もあります」

周庭さん「警察が使った暴力も、私たち香港人としては、決して忘れられない。帰って、またそういった香港市民の一人として、デモに参加したいなど。思います。」

ナレ「香港のデモは、夜になっても続いた。」

日下部「えー午後 9 時になるところですけども、人並みは途絶えることはありません。そして今、大きな歓声起きております。」

ナレ「道路を、埋め尽くす群衆。救急車がやってくると、人々が一斉に動き、道を開けた。整然と行われた 16 日のデモには、主催者発表で、200 万人。実に香港の住民の 4 人に 1 人が参加した。」

日下部「香港の歴史を塗り替えるような、デモからですね、一夜が明けました。このですね、若者が転落死した現場には、本当に多くの花が手向けられてるんですね。1

ナレ「立法会前の幹線道路は、学生らによる占拠が続いていたが、」

学生（字幕）「今から移動するので、物資など必要なものを運ばなければいけない皆さん、手伝ってください」

日下部「えーさっきからですね、この幹線道路を占拠していた若者たち、学生たちが、市民生活に迷惑がかかるということで、今、自主的に、撤収を始めています。」

ナレ「5 年前の雨傘運動の時は、学生が道路を数か月間占拠し続けた。市民の共感は、長くは続かず、結局、警察に制圧された。」

ナレ「今回、学生らは、自ら道路を開け、場所を移した。若者たちのこうした行動を見て、デモに参加した市民も多かった。」

ナレ「子供たちの親の世代にも、共感は広がっている。父母の会を作った母親は」

父母の会代表黄潔宝さん（吹替）「わたしたちは、若い人たちに寄り添っていきたいと思っていますが、彼らがしようとすることに口出しはしません。なぜなら彼らは、自分の未来を自分の手で、掴もうとしているからです。私たちはできる限りのやりかたで、彼らが血を流さないように、逮捕されないようにしたいと思います。」

ナレ「デモの翌日、雨傘運動の学生リーダーだった黄之鋒氏が、刑期を終えて出所し、若者たちの士気はさらに高まった。」

日下部「今ですね、釈放されたばかりのですね、雨傘運動の黄之鋒氏が今、この集会所に来て今、メディアにもみくちやの状態になっています。」

雨傘運動の学生リーダー黄之鋒氏（字幕）「政権に人民の力を理解させたい。」

ナレ「立法会の前には、逃亡犯条例をめぐる状況を、日本んで訴え、前の晩に香港に戻ったばかりの周庭さんがいた。」

日下部「日本の人はね、デモに行っても何も変わらないっていう人が多いけど、」

周庭さん「香港も多いですよ。でも言っても、すごい大規模なね、運動やデモがあっても、政府は全然変わらない場合がむしろ多いですよ。」

周庭さん「私たちは、黙っちゃいけないという気持ちがたくさんあって、立ち上がらないとダメとか悔いる気持ちがありますから」

日下部「皆さんの中で香港を出て、外国へ移住しようって考えたことはありますか？」

デモ参加者（吹替）「返還から 50 年の、2047 年、一国一制度になった時、私たちの子どもが、今のように声を上げる機会がなくなるし、移民という選択肢もあると思います。」

ナレ「香港政府は、条例を撤回するのか？200 万人デモの二日後、林鄭行政長官が、会見を開いた。」

日下部「みんな一斉に携帯を使ってですね、今日、この会見の様子を聞こうとしています。」

林鄭行政長官（字幕）「私はここで、一人一人の香港市民に深く謝罪します。」

ナレ「混乱を招いたことを謝罪。改正案の審議再開は難しいとの、見解を示したが、」

日下部「きわめてですね、撤回に近い説明をですね、何度も、繰り返しているんですけども、撤回という二文字だけが、なぜか避けているんですね。ですからこうやって集まっている人の、欲求不満みたいなものは、どんどんどんどんたまっていってしまう。」

ナレ「行政長官の会見を受け、黄之鋒氏や、周庭さんらも、声明を発表した。」

周庭さん（字幕）「林鄭長官は、全然市民の声を聞いてくれない。香港人や、若者とともにいると思えない。」

ナレ「一方、当初は条例に賛成していた親中派の議員の中にも、反対に転じる人が出てきている」

日下部「えーここはですね、親中派の立法議員、ショウさんのですね、会社なんですけれども、こう入ると、中国の国旗がありますね、」

ナレ「アパレル会社の社長で、中国と取引があり、香港立法会の議員でもある。ショウコクヒン氏は、こう話す。」

鐘国斌議員（吹替）「例えば、30年前に、中国で工場を開こうとします。その時に現地の役人たちといい関係を持つためには、何かしらの『プレゼント』を渡さないと、工場を開くことも、できませんでした。」

ナレ「これまでは、こうした慣習が罪に問われることは無かったのだが、」

鐘国斌議員（吹替）「30年前、工場を開くときにした行為が、急に成立した法律で訴追されることになったら、商売をしている多くの人たちが、不安になります。」

ナレ「燃え上がる香港の怒りに、中国政府はどう対応したのか？」

日下部「海を挟んで反対側が中国というむかーしからある、集落ですよ。」

日下部「対岸にですね、はっきりと、深圳の街が、見えます。えーこうあるいてきたのが、香港側ですけども、対岸の深圳の方がよっぽどですね、大都会に見えますね。」

ナレ「香港メディアは、深圳で香港政策を担当する中国の韓正副首相と、林鄭長官が先週の衝突後、協議したと報じた。中国政治に詳しい評論家のリュウ・エイショウ氏はこう分析する。」

中国政治に詳しい評論家 劉鋭紹氏（吹替）「北京と、行政長官の協議が行われたということは、北京側が、難しいかもしれないが、行政長官をやり続けてくれと、ほのめかしたものと、見られます。林鄭自身には、行政長官をやめるかどうかの決定権はないのです。」

ナレ「条例の改正は、当面困難となったが、」

劉氏（吹替）「北京は、一つの政策をやり遂げるためにあらゆる手段を使おうとします。今はとりあえず延期する。これは中国の政治では、『戦略的後退』と言います。完全に撤退する訳では、ないのです。」

日下部「Hello,Nice to meet you」

ナレ「アンソン・チャン。陳方安生氏は、返還前、香港のナンバー2で、その後も政務官を務めた。香港の良心と呼ばれた彼女は どう見ているのか。」

日下部「行政長官は、習近平さんに喜んでもらおうと思って、急いで、この条例を作ろうと思ったんじゃないですか？」

陳方氏（吹替）「まあその可能性も排除しませんが・・・万一この逃亡犯条例の改正案が立法会で成立したなら、中国政府には、評価されるでしょうね。中国の指導部の間で、林鄭長官個人の名声も高まるでしょうし、」

ナレ「謝罪に追い込まれた林鄭行政長官に対しては、こう指摘した。」

陳方氏（吹替）「林鄭長官は、もし本当に香港人の立場から、香港のために一国二制度を守りたいのであれば、香港人の気持ちを知っているはずですから、北京に香港人の気持ちを伝えなければなりません。北京の神経を逆なでするような、『独立するぞ』『打倒共産党』などの言葉を言わない限り、北京ははねつけることはないと思いますよ。」

VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り返された。

膳場「あのデモ成果で事態が動いたというふうに見えるんですけども、それでも行政長官は、逃亡犯条例の改正を撤回するとは言わないんですね。あのこの状況受け止めてたらいいいんでしょうか？」

日下部「事実上の撤回ですから、市民側の勝利と言って良いんですけども、ただ市民の方は、中国のことだから将来あの手この手ですわね、同じようなことをやってくるんじゃないかという思いがあるんで、どうしてもこの撤回という約束が欲しいんですね、勝ち取りたいんですね。まあ私も撤回の2文字程度だったらね、譲歩して良いんじゃないかと、思うんですけども、政府の人たちってのは、香港政府の人たちは、まあ中国からの圧力があるのか、それとも、中国への忖度なのか、動かない譲らない。うんあの一香港の人っていうのはですね、香港のトップを自由に選ぶことは、できない。そして、そのトップは香港のことを、みずから、決めることができない。それが香港が抱える最大の問題なんですね。」

金平「あの日下部さんがね、リポートの中で言ってたように、今起きている香港の事態ってのは、歴史を塗り替える事態なんですね。あの特にその中学生も含めたね、若い人たちがこう、中心になってるってのは、すごいなと思いましたですけど、母親世代もその、彼らは自分たちの未来をね、自分の手でつかもうとしているっていう、理解を示してましたし、とっても印象的だったんですけど、翻って日本はどうなのかって思いましたですけどね。」

日下部「確かにデモの主役は、若者たちなんですけども、その若者たちを支えよう、サポートしようとしている社会の空気をすごい感じましたね。あの一中学生たちがいったように、両親が心配したけど、最後は許してくれたとかですね。デモ隊がデパートとか、レストランにあふれ出してもですね、店の人全然気にしてないんですね。あと小さい子供連れのお母さんに聞いたら、まあこれは社会勉強だから子供を連れてきた。あと、子どもにデモのことを説明すると、自分の勉強にもなる。本当にみんな香港の自由を守りたいんだなあと思いました。」

この特集に当てられた時間は 1270 秒だった。

VTR の中で中国政治に詳しい評論家の劉鋭紹氏が「北京と、行政長官の協議が行われたということは、北京側が、難しいかもしれないが、行政長官をやり続けてくれと、ほのめかしたものと、見られます。林鄭自身には、行政長官をやめるかどうかの決定権はないのです。」とコメントしており、スタジオでも日下部キャスターが「政府の人たちってのは、香港政府の人たちは、まあ中国からの圧力があるのか、それとも、中国への忖度なのか、動かない譲らない。うんあの一香港の人っていうのはですね、香港のトップを自由に選ぶことは、できない。そして、そのトップは香港のことを、みずから、決めることができない。それが香港が抱える最大の問題なんですね。」とコメントしており、香港政府というものは香港市民に対してある種、超然としたポジションにあるということは伺えてきたが、香港の政治制度がどうなっているのか、という点については今ひとつ見えてこなかった。

今回の香港のデモの熱量の背景には、もともとは自由主義国の一部でありながらも、現状では政府に対する民主的な統制ができていないという現状があるのではなかろうか。そうであるならば、香港の政治制度も見なければ今回のデモについてもその本質が見えてこないのではないだろうか。また、香港が通常の民主主義国が置かれている状況とどう異なっているのかも伝わってこない。また、VTR 中で親中派の議員として取り上げられていた鐘国斌議員の「30 年前、工場を開くときにした行為が、急に成立した法律で訴追されることになったら、商売をしている多くの人たちが、不安になります。」というコメントからは、中国というのは事後法で訴求処罰される国だということが伝わってくるが、そもそも事後法による遡及処罰というのはおおよそ先進国であれば考えられないような話であり、こうした点からもどうも中国というのは、通常の先進国と価値観を共有できていないのでは、という点が見えてくる。

このように中国の異質さというのはいえ隠れするものの、特集の中で香港の政治制度や中国の特殊性というのはいえあまり掘り下げられることがなく、単に逃亡犯条例の改正という条例案に対する反対のデモとして取り上げら

れていた。このように、中国が通常先進国あるいは自由主義・民主主義の国とは異なる性質を強くもっているという情報、中国にとって都合の悪い情報の取り上げられ方はかなり不十分であり、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」に照らすと不十分なものであったと言える。

これでは香港が対峙している中国の中央政府の異質さというのが見えにくく、その結果として香港のデモが何に反対しているのかということについても十分に伝わらないということからも、放送法第四条一項四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点でも不十分なものであった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

検証者所感

・オープニング

金平キャスターが「麻生太郎氏が大臣を務める財務省が森友学園の公文書改竄や前事務次官のセクハラなど不祥事再発防止に向け有識者会議を設置することを決めました、けれども最大の問題は麻生大臣が有識者会議の報告書を受け取るかどうかだと思いますが、いかがでしょうか。」とコメントしていたが、財務省が自ら設置するということは、お手盛りであるという批判は免れ得るものではなく、そうしたものにどれほどの価値があるのかは疑問である。

・【特集】200万人デモと香港の怒り

スタジオでは金平キャスターが「あの日下部さんがね、レポートの中で言ってたように、今起きている香港の事態ってのは、歴史を塗り替える事態なんですね。あの特にその中学生も含めたね、若い人たちがこう、中心になってるってのは、すごいなと思いましたですけど、母親世代もその、彼らは自分たちの未来をね、自分の手をつかもうとしているっていう、理解を示してましたし、とっても印象的だったんですけど、翻って日本はどうかかって思いましたですけどね。」とコメントしてたが、香港と日本のデモの違いは、政治制度によるところも大きいと考えられる。日本のように選挙で国会議員を選び、また行政のトップについても選挙によってノーマンズランドを突き付けることが制度的に保障された国とそうではない香港を並べて論ずるとするのはおかしい議論だろう。

また、VTRでは中国の制度や香港の制度については深掘りされなかったが、行政のトップを選ぶことができない、であるとか事後法による訴求処罰への不安などと、おおよそ先進国や自由主義国では考えられないようなコメントがVTRで取り上げられており、驚きだった。

このように先進諸国や自由主義国から見て中国が明らかに異質な社会であるとすれば、貿易の問題も単なる覇権争いというよりももっと重い意味を持つてくるのではないだろうか。